平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	生涯スポーツ指導 (Lifetime Sports Guidance)			授業コード	A017001
担当教員名	郡　弘文、武田　正芳			科目ナンバリングコード	A10502
配当学年	1 (2015年度以前) 3 (2016年度以降)	開講期	前期・後期		
必修・選択区分	選択	単位数	1		
履修上の注意または履修条件	教職課程履修者は、生涯スポーツ指導1単位は必修です。運動ができる服装、体育館用シューズを必ず用意して下さい。				
受講心得	出席は毎時間取ります。遅刻をしないようにしてください。 レポートの提出を求めます。				
教科書	各講義で資料を配付します。各自ファイルに保管し毎週持参してください。				
参考文献及び指定図書	特になし。				
関連科目	健康の科学、スポーツサイエンス、NSCA認定校カリキュラム科目				

授業の目的	日本でのスポーツは、競技と競争によって優劣を決めることを第一の目的とする傾向が見られます。しかし、スポーツ欲求の高まりの中で、競技スポーツだけでなく、誰にでも生涯を通じて楽しめる生涯スポーツ習得の必要性が高まっています。 生涯スポーツ指導は、従来の種々の種目に加え、ニュースポーツを行い、生涯にわたり積極的にスポーツ活動に参加しようとする態度と実践能力ならびに指導力を養うことを目的とします。
授業の概要	実施種目は受講生数により決定する。生涯スポーツの導入としてできる限り多くの種目を経験してもらいます。第15回目にレポートを作成してもらいます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第　1　週　：生涯スポーツ指導オリエンテーション 生涯スポーツ指導について講義の進め方、クラス分け等行います。	次回の実施種目について予習をする。 キーワード:歴史、ルール、審判法(2時間)
第　2　週　：基礎技術 バドミントン 年齢、男女問わずに誰でもレクリエーション的に行う面と、スポーツとしてゲームを展開する2面からとらえ生涯を通して楽しめることを目的とします。 用具、ルールの説明・ラリーの継続・サービスの練習を行います。	ルールと技術の再確認。(2時間) 次回の技術的課題をまとめる。(2時間)
第　3　週　：応用技術① サービス・レシーブ・クリアーの練習・ヘアピンの練習・ゲームを行います。	技術の再確認。(2時間) 次回のゲームに向けルールを再確認する。(2時間)

第　4　週　：応用技術② ゲーム（ダブルス、シングルス）を行います。	ゲームを振り返り分析をする。（2時間） 次回のゲームプランを立てる。（2時間）
第　5　週　：応用技術③ ゲーム（シングルス、ダブルス）を行います。	ゲームを振り返り分析をする。（2時間） 次回の実施種目について予習をする。 キーワード：歴史、ルール、審判法（2時間）
第　6　週　：基礎技術 バスケットボール バスケットボールは、2つのチームが入り交じり、チーム内の攻防の役割を分担し、パスやドリブルを使ってボールを運びシュートして得点を競い合うことが楽しい運動です。 ルール説明、シュート、パス練習。	技術の再確認。（2時間） 次回の技術的課題をまとめる。（2時間）
第　7　週　：応用技術① 審判方法習得及びゲームを行います。	ゲームを振り返り分析をする。（2時間） 次回のゲームプランを立てる。（2時間）
第　8　週　：応用技術② ゲームを行います。	ゲームを振り返り分析をする。（2時間） 次回の実施種目について予習をする。 キーワード：歴史、ルール、審判法（2時間）
第　9　週　：基礎技術 卓　球 卓球は、その人の力に応じ、老若男女誰にでも楽しめるスポーツです。卓球を通じて、社会性、協調性を身につけ、生涯スポーツにつなげることを目的とします。 用具の説明、ラリーの継続、打ち方の説明、サービスの練習を行います。	ルールと技術の再確認。（2時間） 次回の技術的課題をまとめる。（2時間）
第　10　週　：応用技術① オフェンスの練習（スマッシュ等）・ディフェンスの練習・ゲームを行います。	ゲームを振り返り分析をする。（2時間） 次回のゲームプランを立てる。（2時間）
第　11　週　：応用技術②	ゲームを振り返り分析をする。（2時間） 次回の実施種目について予習をする。 キーワード：歴史、ルール、審判法（2時間）

ゲーム（シングルス、ダブルス）を行います。	
第 12 週 ： 基礎技術 ミニテニス 昭和60年に生涯スポーツとして誕生した、ニュースポーツです。テニスと同様のルールで狭い場所（バドミントンコート）で手軽にでき、運動量もあるスポーツです。健康な生活を送るために、楽しめる生涯スポーツとして行います。 用具、ルールの説明・サービスの練習・サービスリターンからラリーの継続を行います。	ルールと技術の再確認。（2時間） 次回の技術的課題をまとめる。（2時間）
第 13 週 ： 応用技術① ゲーム（ダブルス）を行います。	ゲームを振り返り分析をする。（2時間） 次回のゲームプランを立てる。（2時間）
第 14 週 ： 応用技術② ゲーム（ダブルス）を行います。	ゲームを振り返り分析をする。（2時間） 生涯親しむスポーツの意義についてまとめる。（2時間）
第 15 週 ： レポートを作成してもらいます。	
第 16 週 ：	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	スポーツを楽しんでいる。
【知識・理解】	各種目のルールや技術を習得している。
【技能・表現・コミュニケーション】	実技を通じコミュニケーション、リーダーシップ、協調性や自己表現力を養う。
【思考・判断・創造】	生涯にわたり積極的にスポーツ活動に参加しようとする態度と実践能力ならびに指導力がある。.

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	

【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			**40点**
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。			**20点**
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			**30点**
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**10点**	

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	15週目にレポートを作成してもらいます。
発表・その他（無形成果）	達成水準の目安は以下の通りです。 ［Sレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 ［Aレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 ［Bレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 ［Cレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。